

第1回「演劇×教育」パラシュート研究会

ージャンル混合で「演劇×道德」の授業を体験するー

開催日時 2021年11月23日（火祝）13:00～16:00 / Zoom

プログラム	13:00～13:10	趣旨説明
	13:10～14:10	演劇的手法を用いた授業プログラムの模擬授業体験 紙芝居教材「かいくんのさがしもの」 ファシリテーター F.ジャパンさん（劇団衛星）、中田綾乃さん
	14:10～15:00	「演劇×教育」の取組に関するディスカッション
	15:10～16:00	「パラシュート方式」の方法論に関するディスカッション

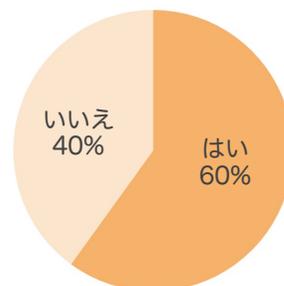
開催概要

アーティストをファシリテーターとして招き、演劇的手法を用いた「海洋×道德」の模擬授業を、紙芝居教材「かいくんのさがしもの」を用いて実施しました。模擬授業体験の後に、参加者と共に「演劇×教育」の取組に関するディスカッションと、「パラシュート方式」の着想に関する意見交換を行いました。

参加者

参加人数	13名
分野	演劇・俳優、現代演劇、文化経済学 異文化コミュニケーション・留学交流教育 医療、公衆衛生学・疫学・臨床医学 研究支援、理系大学院生 小学校教諭、サービス業（法務）、飲食業

Q.「この分野の人と初めてお話しした」という方と出会いましたか？



ディスカッション（一部紹介）

- 答えも、問いすらもオープン。答えは一つでないし、問いすらも子どもたちがつくっていい。そのオープンな雰囲気、自然と成り立たせるのが、演劇の力なのかもしれない。
- 「うまくいったかどうか」は評価しないといけない。評価するには数値にしないといけない。となると、今後は現場で起こることが「数値で測れるもの」になってしまうという弊害。
- ワイルドに未知との遭遇を目指したい人と、みっちりプランを立てたい人。プランを練りすぎると、予期しない学びに出会えない。
- 「噛み合わない」という前提から話を始める。
- いろんな児童・生徒と演劇創作をしていると「Plan」をしている時間はない。まず「Do」を繰り返して創作を進める。振り返ってみて、後からわかる。
- 創造性とマネジメントのバランスのとり方。健全に対立していることが、組織としての健康さの秘訣なのではないか。



Zoom画面



実施の様子(研究会運営スタッフと模擬授業講師)